

# 小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- 2 一問一答方式

質問件名 カーボンニュートラルの虚実を、まず科学的に捉えよ

## 質問要旨

菅総理が昨年 10 月、2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すと宣言。それを踏まえ、経産省は「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を同年 12 月に策定した。

一方、この背景にある「二酸化炭素の人為的な排出が地球温暖化や気候変動の主な原因である」という説に懐疑的な見解を持つ人々も多い。例えば、世界から 9 百人以上の科学者や専門家が参加するグループが一昨年 9 月、国連総長宛てに、“**There is No Climate Emergency** (気候は非常事態ではない)”という公開書簡を出した。「政策は科学的・経済的現実を尊重しなければならない」と結ぶこの書簡には、江崎玲於奈氏と共にノーベル物理学賞を受賞したアイヴァー・ジェーバー氏など著名な科学者が名を連ねている。また例えば、リベラル派の映画監督として知られるマイケル・ムーア氏が昨年公開したドキュメンタリー映画『プラネット・オブ・ザ・ヒューマンズ』では、「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、政治的目的や特定の人々の利益を実現するために、多分に効果が誇張されており、実際は害となる(ことが多い)」といった趣旨の主張が行なわれている。

世界的な流れの中、日本が脱炭素社会の宣言をせざるを得ない状況は一定の理解ができる。しかし同時に、小平市は誤った方向に進むのではないかという危惧がある。例えば、先日議決された小平市第四次長期総合計画基本構想は、『温室効果ガスの排出をゼロにする「脱炭素化」に向けて』という、明らかに認識不足の一文が記載されたまま議会に上程された。市が、今後、このような誤った認識に基づいて、「ぱっと見は環境に良さそうだが、実は社会や環境の害となる」事業に、貴重な市の財源を投じ続けることのないよう、確認の意図をもって、以下質問する。

1. (仮称)小平市第三次環境基本計画(素案)に記載されている、令和元年度末の市内太陽光発電規模約 5,347kW は、どう計算したか。
2. 市内太陽光発電規模約 5,347kW の実現に市が投じた資金の総額は。
3. 市内太陽光発電による年間の総実績使用電気容量(Wh)は。
4. 市内太陽光発電のうち、年間の総売電額は。
5. 太陽光発電による二酸化炭素削減量は、どう計算しているか。
6. 家庭用燃料電池による二酸化炭素削減量は、どう計算しているか。
7. 暖房のエネルギー消費量は非常に大きい。ペレットストーブや暖炉の活用により、二酸化炭素の総排出量を大きく減らすことができる。市内で伐採した樹木や剪定枝をペレットにし、市内公共施設等でペレットストーブの試験的な運用を行ってはどうか。
8. 市内でペレットストーブや暖炉を設置している家屋数や利用状況を把握しているか。
9. 小平町との『ふれあいの森林』事業や、市内にある雑木林の存在は、カーボンニュートラルという観点から、小平市に恩恵をもたらす可能性はあるか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 3 年 2 月 10 日 小平市議会議員 殿 小平市議会議員 氏名 安竹 洋平

受付番号【     】
